富山・中名（なかのみょう）Ⅵ遺跡

1 所在地　富山県婦負郡婦中町中名

2 調査期間　一九九九年（平11）六月～一二月

3 発掘機関　(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

4 調査担当者　山元祐人・内田亜紀子

5 遺跡の種類　集落跡

6 遺跡の年代　古代～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

中名Ⅵ遺跡は神通川と井田川によって形成された複合扇状地上に立地する遺跡である。南接する中名Ⅰ・中名Ⅱ・中名Ⅴ遺跡と一連の遺跡である。公害防除特別土地改良事業に伴い、一九九五年から継続して調査を実施している。古代から近世にかけての複合遺跡であるが、木簡は、室町時代の遺構を中心とするB地区上層から出土した。

B地区上層では旧河道、溝、掘立柱建物、柵列、井戸、土坑などを検出した。SD三二五は幅三・五m深さ〇・六mを測る溝である。埋土上層には木質有機物を多く含む黒色粘土、下層には砂混じりのオリーブ灰色粘土が堆積する。埋土上層から中世の箸、漆器、加工材、中世土師器、珠洲焼、陶磁器などとともに木簡が一点出土した。他に木簡状木製品が一点出土しているが、墨痕は認められない。

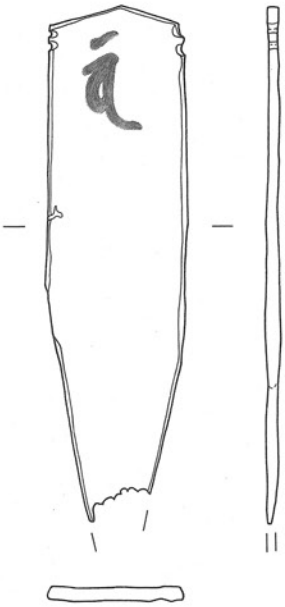
（八　尾）

8 木簡の釈文・内容

(1)　「〈ぁ（バン）」　(113)×30×3　061

下部が欠損する。頭部両側面に、浅い切り込みを二カ所入れる。ぁ（バン）は金剛界大日如来をあらわす。

9 関係文献

(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『埋蔵文化財調査概要―平成一一年度―』（二〇〇〇年）

（内田亜紀子）